

## 第328回 日本体育大学長距離競技会

### 【出場結果】

実施日 : 4月25日(土) 10000m

4月26日(日) 5000m

会場 : 日本体育大学健志台陸上競技場

出場者 : 関口 大樹 三浦 剛 救仁郷 弓揮 下田 大翔

出場種目・出場者・リザルト

氏名	救仁郷	関口	三浦	下田
種目	10000m	5000m	5000m	5000m
組	6組目	8組目	10組目	18組目
タイム	29'09"82	15'21"01	14'51"47	14'19"98
順位	14/28	24/34	8/36	21/34

### 【レポート】

5月に山形県天童市で開催される東日本実業団選手権の選手選考も兼ねて、4名の選手が日本体育大学長距離競技会に出場しました。

初日に行われた10000mの6組目には、先週から連戦の救仁郷が28分台の記録を狙って出場し、レースは2分50秒/km程のペースで進む中、救仁郷は集団の中盤に位置し、3000mを8分34秒台で通過すると、その後も安定したペースでレースは進み、5000mの通過が14分24秒台と、28分台を狙うには絶好のペースとなりました。

中盤以降も先頭集団に食らいついてレースを進めました。勝負処となるラスト2000mで表情に余裕がなくなり、ここでペースを落としてしまい28分台は厳しい展開に。

目標記録の突破は厳しくなりましたが、ラスト1周はペースを切り替えて、シーズンベストとなる29分09秒台でのゴールとなりました。



28分台を狙って先頭集団に食らいつく救仁郷



28分台は届かずも鋭いラストスパートを見せた救仁郷

翌日の5000mにはシーズン初戦となる関口、三浦、13分台を狙う下田の3名が出場しました。8組目に出場した関口は、東日本実業団選手権の選考基準タイムである14分台を狙ってレースに臨みましたが、3000mを8分57秒台で通過したものの、4000m以降に大きくペースを落として15分21秒台のゴールとなり、結果、東日本実業団選手権の出場は叶わず悔しい走りとなりましたが、次のレースでの巻き返しに期待したいと思います。

10組目には三浦が出場して序盤から先頭集団でレースを進め、3000mを8分50秒台で通過すると表情には余裕も感じられましたが、4000m以降に集団のペースが一気に上がると、集団から離れてしまい14分51秒台でのゴールとなりました。

東日本実業団選手権では、今回のタイムを大幅に更新する結果を狙って欲しいと思います。



ラストにペースを落としてしまい課題が残った関口



先頭集団でレースを進める三浦

18組目には2週間前の同記録会で14分一桁の走りを見せた下田が、再び13分台の記録を狙ってレースに臨みました。

13分台を狙う気持ちが走りにも現れ、1周目から先頭集団を引っ張る走りをみせると、3000mを8分25秒台の好ラップで通過し、3000m過ぎに後方の選手が飛び出しをみせると即座に反応して追いかけてみますが、ここで表情に余裕がなくなりペースが鈍りだして、4000m以降はパタリと脚が止まってしまい、14分19秒台でのゴールとなりました。

13分台には届きませんでしたでしたが、前半から積極的にレースをコントロール出来たことはタイム以上に力を感じさせてくれました。



序盤から中盤にかけてレースを引っ張る下田



終盤は脚が止まるも、可能性のある走りを見せた下田

## 【総評】

入社2年目となる救仁郷、下田はそれぞれ10000m28分台、5000m13分台という高い目標を持ってレースに臨み、目標こそ達成出来ませんでした。ハイアベレージの記録を残しており、チームのエース格として今後益々の活躍が期待されます。

関口と三浦は、久しぶりのトラックレースに臨みましたが、シーズン初戦ということもあり、課題も多く残ったレースとなりました。

11月の東日本実業団駅伝を見据えると、少数精鋭の中でチームの底上げが課題となりますので、今回のレースに出場していない選手も含め、当事者意識を強く持ち続けて競技に向き合えるよう、結果を残している選手にライバル心をもって取組みを進めて欲しいと感じます。

次戦は5月15日～17日に山形県天童市で行われる東日本実業団選手権となり、これまでの記録会とは違って実業団選手としての公式戦となるため、同じ地区の実業団選手に1人でも多く競り勝つことを強く意識したレースを期待します。

引き続き、皆さまの温かいご声援をよろしくお願いいたします。

以上